

# 加速化事業評価シート

## 1 基本事項

事業名	乗馬療育推進事業
地方創生 総合戦略 の施策	Ⅱ.潜在価値と魅力を活かした選ばれるまちづくり (3)体験交流人口の増加促進

### (1)事業内容

・浦河町は、軽種馬生産が基幹産業のひとつであり、馬は町民にとって身近な動物である。このため乗馬による療育を提供し障害者や高齢者の機能回復につなげることができる。  
また事業実施によりインストラクターの確保及び人材育成を行う。

### (2)乗馬療育推進のための具体的な取組

- ◆障害児並びに高齢者等の乗馬療育業務及び乗用馬(町有馬等)の飼育業務の委託
- ◆乗馬療育を実施する乗馬公園に係る施設修繕と飼養管理
- ◆乗馬療育に必要な備品を購入

### (3)事業実績

#### ◇浦河町障害者乗馬療育等業務

委託業者 一般財団法人 ホースコミュニティ  
委託内容 障害者乗馬療育業務、乗用馬の飼育  
事業実績 次のとおり

#### ◇乗馬療育の実績

区分	延べ時間数	延べ利用人数
はまなす学園	140.0時間	159人
介護予防センター	37.5時間	190人
健康道場	12.0時間	46人
合計	189.5時間	395人

#### 月別内訳

##### 【時間別】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	割合
はまなす学園	2.5	8.0	13.0	10.0	9.0	10.0	10.5	15.5	14.5	18.0	12.5	16.5	140.0	73.9%
介護予防センター	4.5	4.5	4.5	6.0	0.0	4.5	4.5	4.5	4.5	0.0	0.0	0.0	37.5	19.8%
健康道場	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	1.5	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0	6.3%
合計	7.0	12.5	17.5	22.0	9.0	16.0	19.5	20.0	19.0	18.0	12.5	16.5	189.5	100.0%

##### 【利用者別】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	割合
はまなす学園	3	8	14	11	10	11	11	19	17	21	15	19	159	40.3%
介護予防センター	17	22	19	26	0	15	22	18	51	0	0	0	190	48.1%
健康道場	0	0	0	26	0	6	14	0	0	0	0	0	46	11.6%
合計	20	30	33	63	10	32	47	37	68	21	15	19	395	100.0%

#### ◇施設の修繕・飼養管理

- ・乗馬公園第2厩舎:パドック砂引き工事、温水器取替工事
- ・乗馬公園第3厩舎:給水栓修理、大戸補修
- ・馬乗り台塗装、覆馬場バーク取替工事、マンホール取替工事、尿留蓋取替、馬場修繕工事(馬場、柵)

#### ◇備品購入

- ・二輪ダンプ購入1台

(単位:円)

当初予算額	実績額	予算残額	予算執行率	備考
19,302,000	19,233,432	68,568	99.6%	・乗馬療育業務・乗馬飼育業務 13,505,520 ・施設修繕・備品購入等 5,727,912

## 2 重要業績評価指標(KPI)

指標名	指標値	H28末実績
乗馬療育利用者数	620人	395人
事業の課題	・療育担当者の増員と養成 ・療育に使用する乗用馬の確保と調教 ・療育に利用する馬場等の改善 ・事業を継続・発展していくための体制や仕組みづくり	

## 3 担当課意見

B	A 非常に効果的であった C 効果があった	B 相当程度効果があった D 効果がなかった
---	--------------------------	---------------------------

## 4 上記の理由

乗馬療育の実施体制を確保することができたとともに、今後の展開の基礎をつくることができた。  
また、利用者等からの評価が高く、事業継続はもとより利用回数増の要望が多く、町外からの利用の問い合わせもあったため。

## 5 評価及び今後の方針

乗馬療育の推進体制を引続き確保していくとともに、療育による効果検証についても研究していく。  
利用者等の要望に応えるためにも、課題を解決して継続していく必要がある。  
また、交流人口や観光資源といった視点での展開を検討していく。

【保健福祉課、社会教育課】

# 加速化事業評価シート

## 1 基本事項

事業名	「シェアリング北海道」プロジェクト
地方創生 総合戦略 の施策	Ⅱ.潜在価値と魅力を活かした選ばれるまちづくり (1)移住・二地域居住の促進

### (1)事業内容

・地域特性の異なる道内5町(浦河町・新得町・上川町・鹿部町・厚真町)が連携し移住促進の課題と解決策を共有するとともに、今後の移住促進に向けた調査分析等をおこなう。

### (2)「シェアリング北海道」プロジェクトの具体的取組

- ◆「ちょっと暮らし」(お試し移住)の「地域ビジネス化」プロジェクト
  - ・「ちょっと暮らし」をツールとして、全国で初めてとなる会員組織により、「ちょっと暮らし」「二地域居住」「賃貸移住」等の更なる増大と物件拡充、自走できる組織体の形成を目指した調査分析・情報発信
- ◆「田舎でWORKワク」プロジェクト
  - ・「本州企業のワークライフバランス」と「地元企業の活力増加」を目指し、「テレワーク」、「オフィス誘致」の実現に向けた調査分析・情報発信
- ◆北海道INAKA版CCRC推進プロジェクト
  - ・大都市のアクティブシニアや役職定年者をターゲットとして呼び込み、田舎生活の実現と地方での人材確保・活躍の場の提供、医療・介護との連携など「北海道INAKA版CCRC」に向けた調査分析・情報発信

### (3)事業実績

#### ◇「ちょっと暮らし」ビジネス化検討

ちょっと暮らし事業のビジネス化を目指し、収益化・稼働率向上・物件確保・受入体制等の課題を検証。北海道内でもトップクラスの取組といえる当町の「ちょっと暮らし」事業を整理・検証し発展させる作業は、他の参加町の「ちょっと暮らし」事業の進展に大きく寄与した。

#### 【収益化】

ちょっと暮らし応募者へのアンケートと、物件オーナーへのヒアリング、これまでの稼働率等の分析から、収益化が見込め、かつ応募者の利用意欲を損なわない賃料を算出し、実際に一部の住宅では賃料を値上げした。

#### 【稼働率向上】

現況の申込方法を見直し、申込書を改変した。

稼働率の向上に欠かせない冬期の対策として、移住者の冬の暮らしを紹介する映像を制作し、首都圏等フェアでの上映・配布、ウェブでの配信(浦河移住情報ポータル)でPRに活用。

#### 【物件確保】

既存オーナーへのヒアリング等により、ちょっと暮らし物件の収益シミュレーションを作成し、投資商品としての価値を検証。

空き家リフォーム補助金と併せて物件確保に活用しており、H28年度は2棟増設。

#### 【受入体制の確立】

物件の増設に耐える受入体制の構築を検証し、持続可能な官民協働でのビジネスモデルを作成したが、現状のサービス体制が利用者から高い評価を得ている中で、民間移行については慎重に進めていかなければならない。

#### ◇「田舎でWORKワク」プロジェクト

通勤時間の削減等による業務効率化や、育児・介護退職の防止、職員のメンタルヘルス対策等から、テレワークを導入する首都圏の大企業をターゲットに、当町でのテレワーク実施やサテライトオフィス誘致の可能性について検証。

首都圏大企業の田舎テレワークの需要が一定程度見込めることがわかったが、マッチングには複数自治体の選択肢が必要であるため、来年度以降も連携していかなければならない。

#### 【企業ヒアリング】

実際にモニターとしてIT企業に町へ来てもらい地域資源や体験住宅の見学を実施。

【Webアンケート】

若年層、役職定年者、障がい者とその親、シングルマザーを対象に、それぞれアンケートを実施。「場所にとらわれず自然豊かな田舎で働くことに魅力を感じるか」という設問では、47.6%の対象が「魅力を感じる」と回答があった。

◇「北海道INAKA版CCRC」推進プロジェクト

充実した医療・介護福祉サービス施設と豊かな自然という地域資源を活かして、町外から町内に呼び込んだアクティブシニアが、社会活動や経済活動に参画することで、自身の生きがいがいづくりはもとより、地域課題の解決、地域活性化に寄与する仕組みの構築を検討。

町内の医療・介護福祉サービス施設にヒアリングを実施し、仕組みを構築。

医療・介護職の人手不足は、参加町含め多くの地方自治体の深刻な課題であることから、他の町の現状と比較しながら事業を推進することで、様々なケースを検証することができ大きな効果が得られた。

【週職2日制CCRC】

週に2日程度働いてもらうことにより、地元で土日に休暇を取りたい若年労働者とのバランスを取る役割を担うモデルを検討。

【二世帯家族居住型CCRC】

民間の医療・介護福祉事業者と連携した介護人材確保としての「二世帯家族」受け入れの可能性を検討。

(単位:円)

当初予算額	実績額	予算残額	予算執行率	備考
38,000,000	37,083,063	916,937	97.6%	・ちょっと暮らし地域ビジネス化プロジェクト 16,184千円 ・田舎でWORKワケプロジェクト 9,812千円 ・北海道INAKA版CCRC推進プロジェクト 10,804千円 ・共同検討費 283千円

2 重要業績評価指標(KPI)

指標名	指標値	H28末実績
北海道INAKA倶楽部会員	100人	7人
物件確保	2件	2件
二地域居住者	2名	2名
事業の課題	事業の周知不足もあり、会員獲得に結びつかなかった。事業効果を検証し、そのメリットをアピールすることで会員獲得につなげる必要がある。	

3 担当課意見

C	A 非常に効果的であった      B 相当程度効果があった C 効果があった                      D 効果がなかった
---	---

4 上記の理由

道内5町広域連携での事業で直接浦河に結びつかない事業もあったが概ね各プロジェクトとも今後の浦河町への移住促進に向けて一定の成果はあった。

5 評価及び今後の方針

道内各町と連携をして首都圏等に北海道への移住を発信しながら、浦河町の特色を活かした移住促進に取り組んでいく。

【商工観光課】

